

北九州地区小児科医会会報

講演会・カンファランスの等のご案内

北九州地区小児科医会例会のご案内

第9回ワクチンフォーラム（WEB講習会）

日時：2022年9月12日（月）19:00～

特別講演：「コロナ禍における小児感染症の現状と予防接種の重要性について」

演者：神奈川県衛生研究所 所長 多屋 馨子 先生

事前申込先：<https://forms.office.com/r/a0btZxkry6>

第578回北九州地区小児科医会例会（WEB開催）

日時：2022年10月20日（木）18:50～20:30

一般講演：小児の舌下免疫療法～よくわかる基礎から臨床まで

演者：小倉きふね病院 アレルギー科 岡部 貴裕 先生

特別講演：小児アトピー性皮膚炎の最前線

～新たな治療選択肢を生かして～

演者：神奈川県立こども医療センター

皮膚科 部長 馬場 直子 先生

登録は下記のリンクもしくはQRコードからお願いします。

https://zoom.us/webinar/register/WN_Le7RStGDSG2JVZTzhYH6SA



その他講演会などのご案内

第448回小倉小児科医会臨床懇話会（WEB開催）

日時：2022年9月22日（木）19:00～

演題1：当科で施行している腹腔鏡補助下胃瘻造設術

演者：北九州市立医療センター 小児外科 亀井 一輝 先生

演題2：重症心身障害児の胃瘻造設と管理

演者：北九州市立医療センター 小児外科 中村 晶俊 先生

令和4年度第1回乳幼児健診登録医療機関研修会

日時：2022年9月26日（月）19:00～

場所：北九州市立商工貿易会館 2階 多目的ホール

説明：令和3年度乳幼児健診等結果について/母子手帳アプリを活用した乳幼児・妊婦健診のICT化について

演者：北九州市子ども家庭局子育て支援課

講演：乳児股関節脱臼の早期発見と予防の重要性

演者：北九州市立総合療育センター 整形外科 河村 好香 先生

八幡小児科医会例会（ハイブリッド開催）

日時：2022年10月13日（木）18:50～20:00

会場：千草ホテル 別館 2Fルミネスタ

演題：コロナ時代の予防接種戦略

講師：JA静岡厚生連 静岡厚生病院

小児科 診療部長 田中 敏博 先生

産業医科大学セミナー等のご案内

現地とWeb配信のハイブリッドで開催いたします。Webでの参加をご希望の先生は、j-syoni@mbox.med.uoeh-u.ac.jpまでご連絡願います。後日、参加方法の詳細をお知らせいたします。

9月はクリニカルカンファレンスとして第14回八幡地区病院小児科合同カンファレンスを開催いたします。

第14回八幡地区病院小児科合同カンファレンス

日時：2022年9月12日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

テーマ：外科との連携が有用であった事例

演題1. 心不全増悪として転院搬送され、中腸軸捻転の診断で緊急手術をおこなった21トリソミーの新生児例

JCHO九州病院小児科 大村 隼也 先生

演題2. 外傷の初期診療における他科との連携

北九州市立八幡病院小児科 柳原 千秋 先生

演題3. 食道狭窄の2症例

産業医科大学小児科 煙草谷 ひかる 先生

守田 弘美 先生、本田 裕子 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2022年10月27日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2208教室

演題：神経線維腫症 up-to-date

演者：福田 智文 先生、五十嵐 亮太 先生、重田 英臣 先生

※9月はセミナーはお休みです。

また、10月のクリニカルカンファレンスはお休みです。

第18回小児救急医療ワークショップin 北九州（現地開催）

（日時：2022年9月24日（土）25日（日）

場所：AIM3階（8月25日まで先着順で事前申込要）

※詳細はHPを参照ください。

<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/ho-huku/18301262.html>

遠賀中間内科医会 遠賀中間小児科医会合同例会（WEB開催/共催）

日時：2022年10月19日（水）18:50～20:30

一般演題：新型コロナウイルス感染症の現状

演者：遠賀中間医師会おんが病院 小児科部長 北島直子先生

特別講演：COVID-19の病態・診断・感染対策

演者：愛知医科大学大学院医学研究科

臨床感染症学 主任教授 三嶋 廣繁 先生

参加登録：リンクもしくはQRコードから

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_BP-fbGYPQKyAwR53Zq7JJg



亜鉛欠乏症

基本的なルールとして、療養担当規則第20条第一号投薬のイに、「投薬は必要があると認められる場合におこなう」とされています。また、今回話題となる亜鉛製剤の添付文書には、「血清亜鉛濃度や患者の状態に留意し、漫然と投薬しないこと」と記載されています。そこで、本メモでは亜鉛欠乏症の診断基準と投薬中の注意事項について説明します。

①亜鉛の働き

ヒトの体内にある300種類以上の酵素の活性化に必要な成分で、細胞分裂や核酸代謝などにも重要な働きを果たします。たとえば、アルカリフォスファターゼは亜鉛酵素であり、亜鉛欠乏では低値を示します。

②亜鉛欠乏の要因

亜鉛欠乏の要因はさまざまで、成長期にある小児では摂取量不足や吸収障害、成人では摂取量不足、薬剤の影響、糖尿病・肝疾患など慢性疾患により発症することが多いとされています。

③亜鉛欠乏症の診断

亜鉛欠乏症は、亜鉛欠乏の臨床症状と血清亜鉛値によって診断されます。亜鉛欠乏症の症状があり、血清亜鉛値が亜鉛欠乏または潜在性亜鉛欠乏であれば、亜鉛を投与して、症状の改善を確認することが推奨されています。

亜鉛欠乏症の診断基準（日本臨床栄養学会）

1. 下記の症状／検査所見のうち1項目以上を満たす

1) 臨床症状・所見

皮膚炎、口内炎、脱毛症、褥瘡（難治性）、食欲低下、発育障害（小児では体重増加不良、低身長）、性腺機能不全、易感染性、味覚障害、貧血、不妊症

2) 検査所見

血清アルカリフォスファターゼ (Alp) 低値

注:肝疾患、骨粗鬆症、慢性腎不全、糖尿病、うっ血性心不全などでは亜鉛欠乏であっても低値を示さないことがある

2. 上記症状の原因となる他の疾患が否定される

3. 血清亜鉛値

3-1 60 μ g/dl未満:亜鉛欠乏症

3-2 60~80 μ g/dl未満:潜在性亜鉛欠乏

注:血清亜鉛は早朝空腹時に測定することが望ましい

4. 亜鉛を補充することにより症状が改善する

(確定診断)

上記項目の1, 2, 3-1, 4をすべて満たす場合を亜鉛欠乏症と診断する

上記項目の1, 2, 3-2, 4をすべて満たす場合を潜在性亜鉛欠乏症と診断する

亜鉛補充前に1, 2, 3を満たすものが亜鉛補充の適応になる

④治療

牡蠣、ビーフジャーキー、豚レバー、煮干し、パルメザンチーズなど亜鉛を多く含む食べ物を積極的に摂取するよう食事指導することは大切ですが、日本臨床栄養学会のガイドラインでは、症状があり亜鉛低値が確認された場合には薬物治療の導入を勧めています。低亜鉛血症に適応症がある酢酸亜鉛水和物製剤のノベルジン[®]を食後に投与します。通常、成人および体重30kg以上の小児では、亜鉛として1回25~50mgを開始用量として1日2回経口投与し、体重30kg未満の小児では、亜鉛として1回0.5~0.75mg/kgを開始用量とし1日2回経口投与しますが、患者の状態により1回25mgの1日1回経口投与から開始することもできます。血清亜鉛濃度や患者の状態により適宜増減できますが、最大投与量が決められており注意が必要です。成人及び体重30kg以上の小児の最大投与量は1日あたり150mg（1回50mgを1日3回）、体重10kg以上30kg未満の小児は1日75mg（1回25mgを1日3回）、体重10kg未満の小児は1日25mg（1回12.5mgを1日2回、または1回25mgを1日1回）となっています。

⑤ノベルジン投与中の注意事項

消化器症状（嘔気、腹痛）、血清アミラーゼ（アミラーゼ、リパーゼ）上昇はよくみられる副作用ですが、いずれも軽度で、服薬中止に至ることはほとんどないとされています。しかし、アミラーゼやリパーゼの上昇が長期に持続する場合には、膵機能検査（腫瘍マーカーを含む）を考慮することになります。注意すべきは、本剤はウイルソン病などの銅蓄積症のキレート剤として開発された薬剤であることです。低亜鉛血症に適応となったのは2017年です。亜鉛の長期大量経口投与により銅の腸管での吸収が阻害され、銅欠乏（汎血球減少、貧血、神経障害）をきたす副作用が出現する可能性があります。投与中は血清亜鉛および血清銅を経時的（一般的には数か月間隔）に測定することが必要です。血清銅の測定の際には「銅欠乏症の疑い」などの傷病名をお忘れなく。

(福岡県小児科審査委員連絡会)

協議事項・報告事項

- 1) 5-11歳のコロナウイルスワクチン接種に関して、3回目の接種において、集団接種と個別接種で行われる予定です。集団接種の出務に関して意見をいただきました。
- 2) 9月福岡地方会のプライマリケアの座長担当が北九州で、八幡地区の西野裕先生にお願いしています。
- 3) 今年度、福岡県小児科医会名簿の修正を行っています。変更等ある場合は、各地区理事にご連絡ください。
- 4) 北九州市のペリネイタルビジット事業の今後についてペリネイタルビジット委員会の中島抄由理先生よりご報告いただきました。

- ・北九州市産婦人科医会・小児科医会合同委員会と研修会開催時期、講演テーマ等
- ・ペリネイタルビジット事業実績の評価と統計処理

前委員長（西村慎太郎先生）よりの助言に基づき

1. 施設間の熱意、成熟度のギャップを縮める
→講習会復活が必要
(公的事業の為、紹介先の偏りなどがないように見直しが必要との意見あり)
2. 統計処理→R3年の統計資料より
(紹介意見数818 指導件数706 目標1000件)
3. 事業の将来性
→R3年度 合計支出額が予算額より下回る
※活動内容の再検討が必要
- 5) 今月の新型コロナウイルス感染症への対応について特にありません

<その他の今後のセミナー>

○第18回日本小児科医会生涯研修セミナーin 宮崎 (2022年10月9日(日) 宮崎観光ホテル)

○第54回日本小児感染症学会・学術集会 (2022年11月5日6日アクロス福岡 会頭: 楠原教授)

○第28回日本子ども虐待防止学会 (2022年12月10日(土) 11日(日) 福岡国際会議場会頭 小川厚先生)

委員会報告

1. 学術委員会報告: 白川嘉継

2022年

11月1日 (火)

大塚製薬株式会社

講演名: 経口補水療法をもう一度復習しよう

一実はコロナ禍でも活躍していたその実力一

講師: 聖マリア病院 臨床・研究本部 本部長 靄知光先生

12月

株式会社ツムラ 小児における漢方療法(案)

佐賀の栗山先生

1月 総会

2月 エーザイ株式会社 一般外来でのてんかんの話

3月 メラトベル関連

その他、COVID-19のため、委員会は行われておりません。